

ふるさと心理の構造分析 (2)

武 田 圭 太

問 題

人間行動を個人のパーソナリティ、環境、そして両者の相互作用の関数とみなす社会心理学の基本方程式 (Lewin, 1951) は、個人が全体の部分を構成し、同時に、影響を受ける社会的な場や文脈のなかで人の行動を考えるということを意味する。このような文脈内存在者 (person-in-context) の概念は、個人がその一部となる環境を微視水準から巨視水準までの入れ籠状の構造体と仮定する (Orford, 1992)。そして、環境の概念には、社会環境だけでなく自然環境を含めて考える必要があるだろう。山本 (1989) によると、環境心理学や建築学では、社会学が地域生活の研究領域に必ずしも含めない自然環境を取り入れ、地域生活者の満足感、幸福感、生活の質、精神健康などを論議する。

人の生涯発達について考えるとき、人の発達にともなって子どもの環境は、家族から学校、住居の近隣地域へとしだいに広がっていく。誕生から学童期の頃まではパーソナリティの形成に大いに影響する期間と考えられている (Newman & Newman, 1984; 山本・ワップナー, 1992) ので、環境の地域特性を解明することは、人の生涯発達を理解するうえで一つの課題になるだろう。この期間の個人をとりまく自然および社会環境は、文脈内存在者としての子どものパーソナリティ形成

に重要な意味をもち、成人した後の人格や性格の中核となる特性をかたちづくると思われる。

学童期の頃まですごしたところへの愛着やそこでの人間関係の記憶は、ふるさとにまつわる心理として成人後も比較的長く記憶されている (武田, 2008, 2015a, 2015b, 2016b)。ふるさとにまつわる心理的特性が人間行動を規定することから、両者の関係性を探ることは一つの主題になるだろう。

しかし、過去の記憶を辿って形成されるふるさとの心象を測定する有効な心理尺度はないため、当面は探索的な尺度開発から始めねばならない (武田, 2016a)。本稿は、青年後期から成人前期の発達段階にいる私立大学生を対象に行った質問紙調査の資料を使って、出身地によってふるさと心象の構造に差異がみられるかについて検討し、ふるさと心象尺度の開発に新たな情報を提供することを目的とする。

方 法

調査対象 原調査は、愛知県内の私立A大学と私立B大学の1～2年生を対象に行った。

調査方法 原調査は、構造化された質問紙法で行った。私立A大学1～2年生199人、私立B大学1年生85人、合計284人に調査票を配布し、回答の一部が無記入など不備だった調査票12票を除いて、272の有効票を回収

した(配布票に対する有効回収率95.77%)。調査票は、授業中に配布し回答してもらい回収した。

調査時期 原調査は、私立A大学の学生には2016(平成28)年7月と9月、私立B大学の学生には同年8月に実施した。

分析手続 検討する変数は、①ふるさと心象、②ふるさとの印象、③ふるさとの有無、④ふるさとびとへの好悪、⑤ふるさとでの定住願望である。

ふるさと心象は、ふるさとから連想する人やものごとなどを自由記述したことばを集め、そのなかから、ふるさとを主題とする既存の論説を参考に選定した表1の項目1～25(武田,2008)に対して、「1=そう思う/2=どちらかといえばそう思う/3=どちらかといえばそうは思わない/4=そうは思わない」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4=そう思う/3=どちらかといえばそう思う/…/1=そうは思わない」と逆転させた。

ふるさとの印象は、「あなたは、ふるさとにどのような印象を持ちますか」に対して、「1=良い印象を持つ/2=どちらかといえば良い印象を持つ/3=どちらかといえば悪い印象を持つ/4=悪い印象を持つ」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4=良い印象を持つ/3=どちらかといえば良い印象を持つ/…/1=悪い印象を持つ」と逆転させた。

ふるさとの有無は、「あなたには、ふるさとがありますか」に対して、「1=ふるさとがある/2=どちらかといえばふるさとがある/3=どちらかといえばふるさとはない/4=ふるさとはない」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4=ふるさとがある/3=どちらかといえばふるさとがある/…/1=ふるさとはない」と逆転させた。

ふるさとびとへの好悪は、「あなたは、ふるさとの人たちが好きですか」に対して、「1

=ふるさとの人たちが好きである/2=どちらかといえばふるさとの人たちが好きである/3=どちらかといえばふるさとの人たちが好きでない/4=ふるさとの人たちが好きでない」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4=ふるさとの人たちが好きである/3=どちらかといえばふるさとの人たちが好きである/…/1=ふるさとの人たちが好きでない」と逆転させた。

ふるさとでの定住願望は、「あなたは、ふるさとに住みたいですか」に対して、「1=ふるさとから離れずずっと住みたい/2=ふるさとからしばらく離れて暮らした後で、戻ってきてずっと住みたい/3=ふるさとから離れて暮らしながら、ときどき戻ってきたい/4=ふるさとから離れたところで、戻らずにずっと暮らしたい」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4=ふるさとから離れずずっと住みたい/3=ふるさとからしばらく離れて暮らした後で、戻ってきてずっと住みたい/…/1=ふるさとから離れたところで、戻らずにずっと暮らしたい」と逆転させた。

この他に、⑥性別、⑦年齢、⑧出生順、⑨出身地の回答を得た。出生順は、「1=長男または長女である/2=長男または長女でない」のうち1つを、出身地は、「1=愛知県内である/2=愛知県外である」のうち1つをそれぞれ選んでもらい、選択肢番号を得点にした。

本稿では、出身地を基準変数として、愛知県内の出身者と愛知県外の出身者とを区分し、まず、ふるさと心象の個別結果にもとづいて2つの測定尺度をつくる。次に、出身地別に、ふるさと心象尺度の得点とふるさとにまつわる情動や意識や態度や行動などの心理的特性を測る諸項目の得点との関係を探索的に検討する。そして、ふるさと心理の構造が出身地によってどのように違うかについて考察する。

結果と考察

出身地によるふるさと心象の差異 すべての変数について、愛知県内出身者と愛知県外出身者として比較したところ、「3. ふるさは、水や空気がきれいなところである」「6. ふるさは、山や川や海が美しいところである」

「7. ふるさは、夢や希望に満ちているところである」「8. ふるさは、明るいところである」「9. ふるさは、遠く離れたところである」「15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる」に有意差がみられ、いずれも愛知県外人のほうが高かった(表1)。項目15以外は、ふるさとの環境やふるさとまで

表1 ふるさと心象の愛知県内外の差

	愛知県内 (n=181)		愛知県外 (n=91)	
	M	SD	M	SD
1. ふるさは、なつかしいところである	3.53	0.76	3.51	0.92
2. ふるさは、心が安らぐところである	3.69	0.60	3.73	0.63
3. ふるさは、水や空気がきれいなところである	3.00	0.94	3.46	0.83***
4. ふるさは、子どもの頃に住んでいたところである	3.54	0.83	3.69	0.57
5. ふるさは、のんびりしたところである	3.36	0.80	3.43	0.87
6. ふるさは、山や川や海が美しいところである	2.79	1.04	3.24	0.97**
7. ふるさは、夢や希望に満ちているところである	2.26	0.92	2.54	1.03*
8. ふるさは、明るいところである	2.82	0.89	3.09	0.92*
9. ふるさは、遠く離れたところである	2.23	1.08	2.69	1.10**
10. ふるさは、住みやすいところである	3.27	0.89	3.37	0.81
11. ふるさとは、親が住んでいる	3.63	0.74	3.62	0.80
12. ふるさとは、田畑がある	3.28	0.86	3.46	0.97
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	3.44	0.85	3.54	0.82
14. ふるさとは、墓がある	3.14	0.98	3.37	0.89
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	3.35	0.95	3.57	0.81*
16. ふるさとは、実家がある	3.66	0.69	3.80	0.54
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	2.22	1.00	2.38	1.09
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	2.82	0.96	2.90	1.02
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	3.05	1.07	3.07	1.08
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	2.94	0.97	3.02	1.03
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	2.09	0.93	2.21	1.05
22. ふるさとは、漁港がある	2.01	1.10	2.04	1.11
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	2.52	0.94	2.64	1.05
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	2.66	0.90	2.68	0.97
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	3.30	0.78	3.45	0.76
26. ふるさとの印象	3.52	0.57	3.56	0.60
27. ふるさとの有無	3.54	0.74	3.67	0.65
28. ふるさとびとへの好悪	3.39	0.66	3.44	0.65
29. ふるさとでの定住願望	2.82	0.85	2.81	0.83
30. 性別	1.56	0.50	1.62	0.49
31. 年齢	19.25	0.82	19.10	0.86
32. 出生順	1.29	0.46	1.30	0.46

*p < .05 **p < .01 ***p < .001

の距離をあらわす典型的な心象であり、名古屋市を中心に人口が集中し都市の特性をもつ愛知県全般の心象得点は、これらの項目については相対的に低いと思われる。

ふるさとの主に自然環境には有意差がみられるが、「お爺さんやお婆さん」以外の人物や事物の心象に差異はない。ふるさとの心理的特性や分析対象の個人属性も違いはない。

ふるさと心象の構成因子 愛知県内出身者について、表1の項目1～25を主因子法で因子分析しヴァリマックス回転した結果、固有値1を基準にその落差から7因子を抽出した(表2)。項目1、2、4、9、10、12、13、14、15、17、21、22、24、25が因子負荷量0.5未満だったので除外し、残りの11項目で再び因子分析を行った。なお、項目を選別する場合、因子負荷量0.4以上を基準にするという考え方が一般的である(中村, 2007; 柳井・

繁樹・前川・市川, 1990)が、本稿では、ふるさと心象を構成概念とする先行研究がないことから、まず何より安定した因子構造を確保するため、因子負荷量0.5以上を選別基準にした。

11項目を因子分析した結果、3因子が抽出されたが項目5、7、19の因子負荷量が0.5未満だった。そこで、それらを除いた残り8項目を因子分析した。その結果、3因子が抽出され、愛知県内人のふるさと心象については、3因子構造とした(表3)。第I因子の寄与率28.119%、第II因子17.815%、第III因子14.385%、合計60.319%である。

次に、愛知県外出身者についても同様に、表1のふるさと心象25項目を主因子法で因子分析しヴァリマックス回転した。固有値1を目安に減少傾向から6因子を抽出した(表4)。因子負荷量0.5未満の項目7、8、13、14、

表2 愛知県内人のふるさと心象全項目の回転後の因子負荷量 ($n = 181$)

項 目	1	2	3	4	5	6	7	共通性
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.776	-0.041	-0.217	-0.037	-0.295	-0.133	-0.259	0.825
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.673	-0.058	-0.245	0.011	-0.148	0.104	-0.326	0.655
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.653	-0.207	-0.352	-0.076	-0.013	0.040	-0.088	0.608
8. ふるさとは、明るいところである	0.613	0.041	-0.145	-0.561	-0.114	0.026	0.155	0.751
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.577	-0.358	0.438	-0.046	-0.071	0.196	0.056	0.701
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.573	-0.082	-0.039	0.301	-0.122	-0.178	0.122	0.489
7. ふるさとは、夢や希望に満ちているところである	0.526	-0.087	-0.080	-0.332	0.088	0.082	0.184	0.449
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.521	0.155	0.425	-0.035	-0.040	0.042	-0.135	0.498
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	0.497	0.267	-0.104	-0.049	-0.126	-0.061	-0.057	0.354
12. ふるさとは、田畑がある	0.484	0.085	0.323	0.213	0.033	0.148	0.007	0.414
22. ふるさとは、漁港がある	0.481	-0.457	-0.027	0.072	0.366	-0.090	-0.034	0.590
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	0.478	-0.246	-0.122	0.252	0.129	0.013	0.000	0.385
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	0.478	-0.157	-0.273	0.045	0.214	0.128	0.113	0.405
14. ふるさとは、墓がある	0.414	0.278	-0.046	0.357	-0.002	-0.122	0.229	0.446
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	0.403	-0.142	-0.260	0.116	0.102	0.176	0.252	0.369
1. ふるさとは、なつかしいところである	0.357	0.077	0.244	-0.225	0.196	-0.306	-0.048	0.379
16. ふるさとは、実家がある	0.132	0.636	0.088	0.190	-0.125	0.164	-0.034	0.510
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.215	0.610	-0.007	0.127	0.034	0.215	0.001	0.481
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	0.239	0.474	0.107	-0.006	0.373	0.062	-0.135	0.455
10. ふるさとは、住みやすいところである	0.394	0.464	-0.201	-0.084	0.010	-0.051	0.120	0.435
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	0.261	0.462	-0.068	-0.085	0.270	0.089	-0.110	0.387
9. ふるさとは、遠く離れたところである	0.195	-0.376	0.199	0.163	0.184	-0.018	-0.244	0.339
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.490	-0.205	0.569	-0.087	-0.156	0.208	0.130	0.698
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	0.424	0.020	0.056	0.430	-0.107	-0.251	0.096	0.452
2. ふるさとは、心が安らぐところである	0.332	0.262	0.286	-0.227	0.060	-0.417	0.073	0.495
寄 与 率	8.850	8.633	8.472	8.212	6.443	5.264	4.399	

表3 愛知県内人のふるさと心象選別項目の回転後の因子負荷量 (n = 181)

項 目	1	2	3	共通性
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.840	0.151	0.065	0.732
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.760	0.130	0.072	0.600
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.743	0.091	-0.038	0.562
8. ふるさとは、明るいところである	0.558	0.219	0.036	0.360
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.133	0.837	0.048	0.720
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.282	0.793	-0.088	0.716
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.077	-0.010	0.764	0.590
16. ふるさとは、実家がある	-0.001	-0.010	0.738	0.544
寄 与 率	28.119	17.815	14.385	

表4 愛知県外人のふるさと心象全項目の回転後の因子負荷量 (n = 91)

項 目	1	2	3	4	5	6	共通性
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.841	0.176	0.067	0.147	0.167	-0.008	0.792
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.680	0.174	0.001	0.345	0.063	0.213	0.661
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.677	0.171	0.122	0.156	0.247	-0.028	0.589
12. ふるさとは、田畑がある	0.547	0.156	0.081	0.471	-0.175	-0.345	0.701
9. ふるさとは、遠く離れたところである	0.538	0.221	0.225	-0.027	0.161	-0.060	0.419
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.203	0.734	-0.079	0.183	0.077	0.257	0.691
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	0.268	0.705	0.240	0.122	0.122	-0.049	0.658
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	0.032	0.599	0.191	0.184	0.057	0.093	0.442
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	0.190	0.551	0.287	0.173	0.116	-0.187	0.500
22. ふるさとは、漁港がある	0.208	0.511	0.071	-0.244	0.095	-0.156	0.402
7. ふるさとは、夢や希望に満ちているところである	0.352	0.454	0.426	-0.067	0.265	0.165	0.614
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.272	0.408	0.369	0.158	0.058	-0.165	0.432
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	0.035	0.081	0.688	0.251	0.167	-0.002	0.572
10. ふるさとは、住みやすいところである	0.075	0.075	0.639	0.084	0.165	-0.042	0.455
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.394	0.408	0.546	-0.139	-0.139	0.137	0.677
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.419	0.406	0.534	-0.090	0.137	0.151	0.675
8. ふるさとは、明るいところである	0.378	0.203	0.423	0.131	0.336	0.346	0.613
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	-0.068	0.238	0.354	0.254	0.225	-0.101	0.312
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.037	0.070	0.109	0.782	-0.055	0.014	0.633
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	0.130	-0.020	0.141	0.616	0.042	0.230	0.472
16. ふるさとは、実家がある	0.150	0.080	0.015	0.572	0.072	-0.088	0.370
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	0.300	0.338	0.164	0.400	-0.218	-0.194	0.476
14. ふるさとは、墓がある	0.055	0.321	0.032	0.353	-0.107	-0.106	0.254
2. ふるさとは、心が安らぐところである	0.212	0.075	0.175	0.042	0.713	0.046	0.593
1. ふるさとは、なつかしいところである	0.206	0.145	0.291	-0.151	0.636	-0.005	0.575
寄 与 率	13.253	12.766	10.105	9.580	6.028	2.576	

15、23を除いて、残り19項目で2回目の因子分析を行った。その結果、5因子が抽出されたが、項目22の因子負荷量が0.5未満だったので除いた。残り18項目で因子分析した結果、5因子が得られた(表5)。第I因子の寄

与率15.451%、第II因子12.998%、第III因子10.293%、第IV因子9.517%、第V因子7.510%、合計55.767%である。

因子の信頼性 愛知県内人の3因子の信頼性について、クロンバック(Cronbach,L.J.)

表5 愛知県外人のふるさと心象選別項目の回転後の因子負荷量 ($n = 91$)

項 目	1	2	3	4	5	共通性
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.860	0.180	0.123	0.052	0.190	0.826
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.672	0.158	0.180	0.125	0.240	0.583
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.649	0.268	0.330	-0.020	0.064	0.607
12. ふるさとは、田畑がある	0.556	0.132	0.406	0.091	-0.153	0.523
9. ふるさとは、遠く離れたところである	0.531	0.185	-0.035	0.234	0.233	0.426
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	0.268	0.736	0.087	0.215	0.123	0.682
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.219	0.693	0.104	-0.075	0.101	0.555
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	0.046	0.641	0.129	0.154	0.035	0.455
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	0.191	0.538	0.181	0.262	0.107	0.439
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.047	0.146	0.805	0.110	-0.100	0.693
16. ふるさとは、実家がある	0.146	0.077	0.612	-0.001	0.032	0.403
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	0.133	0.062	0.552	0.116	0.042	0.341
10. ふるさとは、住みやすいところである	0.032	0.082	0.142	0.661	0.186	0.499
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	0.058	0.122	0.219	0.626	0.170	0.487
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.387	0.433	-0.182	0.528	-0.072	0.655
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.402	0.410	-0.097	0.516	0.195	0.643
2. ふるさとは、心が安らぐところである	0.169	0.107	0.077	0.136	0.743	0.617
1. ふるさとは、なつかしいところである	0.181	0.134	-0.140	0.263	0.683	0.605
寄与率	15.451	12.998	10.293	9.517	7.510	

の α 係数を内的整合性の指標としたところ、第 I 因子 = 0.828、第 II 因子 = 0.819、第 III 因子 = 0.720 と十分な値だった。因子別の項目間の相関係数は、第 I 因子が 0.401~0.682、第 II 因子は 0.697、第 III 因子は 0.564 だった。

愛知県外人についても同様に α 係数をみると、第 I 因子 = 0.830、第 II 因子 = 0.797、第 III 因子 = 0.701、第 IV 因子 = 0.761、第 V 因子 = 0.704 と十分な値だった。因子別の項目間の相関係数は、第 I 因子が 0.321~0.712、第 II 因子は 0.392~0.602、第 III 因子は 0.304~0.516、第 IV 因子は 0.353~0.655、第 V 因子は 0.582 だった。以上の結果から、各因子の尺度としての信頼性を確認した。

因子の解釈 愛知県内出身者の各因子を解釈すると、第 I 因子は、「20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる」「18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる」「23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる」などの負荷が高かったので「共同体」の因子とした。第 II 因子は、「3. ふるさとは、

水や空気がきれいなところである」「6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである」の負荷が高かったので「美しい自然環境」の因子とした。第 III 因子は、「11. ふるさとは、親が住んでいる」「16. ふるさとは、実家がある」の負荷が高かったので「家族」の因子とした。

愛知県外出身者の第 I 因子は、「6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである」「3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである」「5. ふるさとは、のんびりしたところである」などの負荷が高かったので「美しい自然環境」の因子とした。第 II 因子は、「17. ふるさとは、大家族が住んでいる」「19. ふるさとは、先祖代々の土地がある」「21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる」などの負荷が高かったので「イエ」の因子とした。第 III 因子は、「11. ふるさとは、親が住んでいる」「16. ふるさとは、実家がある」などの負荷が高かったので「家族」の因子とした。第 IV 因子は、「10. ふるさとは、住みやすいと

ころである」「25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる」などの負荷が高かったので「住みやすさ」の因子とした。第V因子は、「2. ふるさとは、心が安らぐところである」「1. ふるさとは、なつかしいところである」の負荷が高かったので「安らぎ」の因子とした。

ふるさとの心理的特性との関係 3つの因子得点で示される愛知県内出身者のふるさと心象とふるさとの印象、ふるさとの有無、ふるさとびとへの好悪、ふるさとでの定住願望との偏相関を分析したところ、表6の結果が得られた。ふるさと心象の因子得点とふるさとの心理的特性との偏相関は、尺度の基準関連妥当性をあらわす。

愛知県内人については、「共同体」の因子とふるさとの印象およびふるさとびとへの好悪とのあいだに正の相関関係、「家族」の因子とふるさとの有無とのあいだにも正の相関関係がみられた。しかし、「美しい自然環境」の因子はふるさとの心理的特性と有意な相関性をあらわさなかった。また、ふるさとでの定住願望は、どの因子得点とも相関しなかつ

た。

愛知県内出身者のふるさと心象は、自然環境の美しさより、ふるさとで暮らしている人たちから感じられる人情味や面倒見のよさや義理堅さなどの情動に影響されるようである。そうした特性で心象化されるふるさとびとに囲まれている家族の存在が、ふるさとの有無を規定する主要因と思われる。愛知県内人については、家族やふるさとびとなど、ふるさとの心象に関する“人”が有意味であり、ふるさとの自然環境を表現する典型的な特性はあまり影響しないのかもしれない。

しかし、そうしたふるさとの心象は、ふるさとでの定住願望と相関しない。ふるさとに住み続けたいという愛知県内人の願望は、ふるさとの自然環境美の知覚ではない他の要因に影響されるようである。

一方、5因子で示される愛知県外出身者のふるさと心象とふるさとの印象、ふるさとの有無、ふるさとびとへの好悪、ふるさとでの定住願望との偏相関を分析した結果が表7である。「美しい自然環境」の因子とふるさと

表6 愛知県内人のふるさと心象の偏相関係数 (n = 181)

	1	2	3	4	5	6	7
1. ふるさとの印象	—						
2. ふるさとの有無	-0.029	—					
3. ふるさとびとへの好悪	0.332***	0.326***	—				
4. ふるさとでの定住願望	0.200**	-0.065	0.038	—			
5. 「共同体」の因子	0.266***	-0.010	0.248**	0.069	—		
6. 「美しい自然環境」の因子	-0.020	-0.034	0.087	0.038	0.032	—	
7. 「家族」の因子	0.006	0.318***	0.058	0.063	-0.054	-0.020	—

p < .01 *p < .001

表7 愛知県外人のふるさと心象の偏相関係数 (n = 91)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. ふるさとの印象	—								
2. ふるさとの有無	0.085	—							
3. ふるさとびとへの好悪	0.215*	0.114	—						
4. ふるさとでの定住願望	0.205	0.017	0.084	—					
5. 「美しい自然環境」の因子	0.328**	0.197	-0.013	-0.235*	—				
6. 「イエ」の因子	0.047	0.108	0.179	0.132	0.039	—			
7. 「家族」の因子	-0.196	0.329**	0.093	0.027	0.023	-0.028	—		
8. 「住みやすさ」の因子	0.345**	0.052	0.425***	-0.001	-0.153	-0.085	-0.007	—	
9. 「安らぎ」の因子	0.593***	0.021	0.108	-0.225*	-0.198	-0.076	0.043	-0.286**	—

p < .01 *p < .001

の印象およびふるさとでの定住願望とのあいだに正の相関関係、「家族」の因子とふるさとの有無とのあいだに正の相関関係、「住みやすさ」の因子とふるさとの印象およびふるさとびとへの好悪とのあいだに正の相関関係、そして、「安らぎ」の因子とふるさとの印象およびふるさとでの定住願望とのあいだにも正の相関関係がみられた。しかし、「イエ」の因子は、4つのふるさとの心理的特性と相関しなかった。

愛知県内人と違い愛知県外人の場合、「美しい自然環境」の因子と「安らぎ」の因子がふるさとでの定住願望と相関する。愛知県外人は、ふるさとの美しい自然環境や心のやすらぎ、なつかしさなど、ふるさとから漠然と知覚される心象に魅かれ、ふるさとに住み続けたいという願望をもつかもしれない。ふるさとを離れて就学している彼らは、愛知県内人と違ってふるさとと地理的に隔たったところで生活していることが、望郷の思いなど、特有の感情を喚起させているとも考えられる。

ふるさとびとや家族は、愛知県内人と同様に愛知県外人のふるさとの心象化に影響するようである。家族は、ふるさとの有無に影響し、ふるさとびとは、ふるさとの住みやすさと相関する。

しかし、大家族、先祖代々の土地、裕福な人たち、保守的な人たちであらわされる「イエ」の因子は、ふるさとの心理的特性と無相関だった。愛知県以外の出身者を一つの集団にまとめたので、愛知県外人のふるさと心象はバラツキが大きいと考えられる。そのため、「イエ」の因子と一人ひとりのふるさとの心理的特性との関係性を一定の方向に集約させるほどの規定力を持ち得なかったのではないかと思われる。

ともあれ、本稿では、愛知県内出身者と愛知県外出身者それぞれのふるさと心象を測定し、異なる因子で構成される2つの心理尺度

を試作した。愛知県内人のふるさと心象は、ふるさとの自然環境より人の認知にもとづく社会環境に強く影響されることが明らかになった。今後はこの予備尺度を用いて、愛知県内出身者と特定の愛知県外出身者とを対比させ、出身地によってふるさと心象に違いがみられるかについてさらに検討してみたい。

引用文献

- Lewin, K. 1951 *Field theory in social science*. New York: Harper & Brothers.
- 中村知靖 2007 「心理尺度作成における因子分析の利用法」『教育心理学年報』46, 42-45.
- Newman, B.M., & Newman, P.R. 1984 *Development through life: A psychosocial approach* (3rd ed.). Homewood, Illinois: Dorsey. (福富 護 訳 1988 『新版 生涯発達心理学』川島書店)
- Orford, J. 1992 *Community psychology: Theory and practice*. New York: John Wiley & Sons. (山本和郎 監訳 1997 『コミュニティ心理学—理論と実践—』ミネルヴァ書房)
- 武田圭太 2008 『ふるさとの誘因』学文社
- 武田圭太 2015a 「女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (5)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』60, 51-58.
- 武田圭太 2015b 『かかわりを求める女性心理』ナカニシヤ出版
- 武田圭太 2016a 「ふるさと心理の構造分析 (1)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』61, 45-49.
- 武田圭太 2016b 『“私”を選択する女性心理』学文社
- 山本和郎 1989 「コミュニティとストレス—地域生活環境システムの影響—」『社会心理学研究』4(2), 68-77.
- 山本多喜司・S.ワップナー 編著 1992 『人生移行の発達心理学』北大路書房
- 柳井晴夫・繁樹算男・前川眞一・市川雅教 1990 『因子分析』朝倉書店